

多摩市医療的ケア児（者）連携推進協議会 令和7年度第3回 要点録

日 時	令和8年3月5日（木） 18：30～20：00	場所	多摩市役所 東庁舎会議室
出席	新垣、影近、冨田、佐久間、中村、野口、五味、医療的ケア児等保護者2名		
事務局	障害福祉課 発達支援室 こども家庭センター		
記録者	事務局（障害福祉課）		
項目	<p>1 事務局より報告</p> <p>重症心身障がい児（者）等在宅レスパイト事業の啓発について</p> <p>災害対策支援シートの進捗状況</p> <p>医療的ケア児等コーディネーター配置について</p> <p>2 議題</p> <p>次年度以降の活動計画について</p> <p>医療的ケア児等啓発について</p> <p>3 その他</p>		
	詳細		
1. 事務局より報告	<p>〈会長〉</p> <p>前回副会長であった委員の退任に伴い、現在副会長が不在となっている。副会長の不在について事務局から説明をお願いします。</p> <p>〈事務局〉</p> <p>現在、訪問看護ステーションの委員が不在である。事前に会長とも相談し、訪問看護ステーションからの委員の選出を訪問看護部会に打診をしている。そのため今年度は不在のまま協議を進めていただければと考えている。</p> <p>〈会長〉</p> <p>訪問看護部会との調整をお願いしつつ、今回令和7年度最終回になるため、副会長不在のまま、次年度のタイミングで選任と思っている。皆様で何かご意見があればお願いしたい。</p> <p>（委員より異議なし）</p> <p>では、次第に沿って、事務局より報告をお願いします。</p> <p>〈事務局〉</p> <p>次第に報告事項として載せてはいないが、前回ご報告した多摩市みんなの美術作品展について報告する。アンケートには医療的ケア児の展示についての項目がなかったため、展示についての意見がなかった。次年度は項目について考えていく。次に、重症心身障害児者</p>		
重症心身障がい児			

<p>(者) 等在宅レスパイト事業の啓発について</p>	<p>等のレスパイト事業の啓発についてのご報告。アンケート結果や委員の皆様のご意見を伺って、リーフレットの見直しを行っている。リーフレットが完成次第、医師会、訪問看護部会での周知、関係課である子ども・若者政策課、児童青少年課、こども家庭センター等への周知を行っていく予定。</p>
<p>災害対策支援シートの進捗状況</p>	<p>次に、災害対策支援シートの進捗状況を報告する。本協議会で作成した災害対策支援シートの作成を順次進めている。令和5年度試行的に作成した3名の方のほか、ケースワーカーが個別に要望をお伺いしている状況。災害対策支援シートは、在宅人工呼吸器使用以外の医療的ケアの方を対象としている。現在、洪水想定浸水区域の方の個別避難計画の作成を進めているが、医療的ケアの方は優先的に災害計画を立てる必要があるため、洪水想定浸水区域以外の方も対象としている。現在、新たに2名の希望者がおり、仕様書等の内容を訪問看護ステーションに説明を行い、作成を進めていく予定である。</p>
<p>医療的ケア児等コーディネーター配置について</p>	<p>続いて、医療的ケア児とコーディネーター配置についての報告をする。令和8年4月に配置できる予定で、現在想定している委託先と役割分担等について話し合いを重ねている。配置後も定期的に連絡会を行い、情報共有のほか、個別課題の整理を行っていく予定である。市内のコーディネーター研修修了者の意見交換会と地域資源リストの整理、普及啓発も委託先コーディネーターを中心に徐々に進めていきたいと考えている。周知については、リーフレットを作成してホームページにも掲載する。また、関係課への周知は随時行う。</p> <p>次年度の協議会開催について、医療的ケア児等コーディネーター配置に伴い、財政の関係上やむを得ず、協議会の開催は年2回とさせていただくこととなった。委託先コーディネーターと障害福祉課では、連絡会を定期的に開催していくため、個別課題の整理を行い、協議会で報告し協議を行っていく予定。委託先コーディネーターにも協議会に出席していただき、相談状況等を報告していただく。</p>
<p>〈会長〉</p>	<p>事務局からの報告について、何かご意見やご質問等があればお願いします。</p>
<p>〈委員〉</p>	<p>最近、人工呼吸器を使用していないお子様のお母様から作ってほしいというご依頼が、障害福祉課を通じて頂いた。災害対策支援シートについて、人工呼吸器以外の方に勧めていいというのが、周知はどのように行っているのかを知りたい。</p>
<p>〈事務局〉</p>	<p>障害福祉サービスの更新時などケースワーカーが実際に話せるタイミングがあるため、そのタイミングで案内をしている。個別に丁寧に説明したいと考えているため、一斉通知は</p>

せず、担当の地区ワーカーが説明をしている状況である。まだ説明できていない方がいるため、早めに連絡を取り、順次説明したいと考えている。

〈委員〉

医療的ケア児等コーディネーターの委託先は一箇所になるのか、またいつ頃オープンになるのかご予定があったら教えていただきたい。

〈事務局〉

令和8年の4月から配置がほぼ決定している。議会でも承認を得る予定。委託先に関しては一箇所になる。窓口を一箇所にする事で、分かりやすい窓口となると考えている。4月以降、早急に周知できればと思っている。

〈委員〉

医療的ケア児等コーディネーターと市との連絡会が組まれて、協議会が2回になるという事だが、具体的な話し合いの内容について、ディスカッションしながらやっていくのか、もしくは協議会から出てきた提案も取り込まれるのか、どのようにイメージしているか。

〈事務局〉

コーディネーターの連絡会に関しては、4月は関係課等との顔合わせを行い、定期的に行っていく。関係機関やご家族の相談を個別に受けるため、その相談実績を細かく報告して頂く予定。それに沿って、地域の課題や個別課題の集積をし、どういった事が課題であるのかを、まずは障害福祉課と委託先のコーディネーターで話し合いをしたいと思っている。課題を整理して、協議会で報告し、協議していただくイメージである。

〈委員〉

協議会が5~6年実績がある中で、今出ている課題をどうまとめて、コーディネーターに伝えた上で話をするか。今まで話しあったある程度積み重ねて来られたもの、まだ解決していない問題の中で、どの辺で医療的コーディネーターがかなり強く関わって欲しいのか等をどのように整理して伝えていくのか。例えば、会長とコーディネーターの委託先と話し合う機会を設けるとか、そういう事はどうするのか教えていただきたい。

〈事務局〉

協議会が平成31年度から色々積み重ねて来た経過は重要と考えている。障害福祉課から委託先のコーディネーターに伝えてく。コーディネーターと市の連絡会にも会長をお呼びして、協議会での歴史や課題感を共有しながら一緒に考えて行くことを想定している。

〈会長〉

連絡会に顔を出せればと思っているが、年2回の協議会になってしまうので、そこで話し合われた事を、例えば議事録の様な形で委員の皆さまにメールでお伝えするなどを検討すると良いと思う。議事録を委員の方に3か月に1回程度連絡頂けると良いと考えている。

〈事務局〉

進捗状況を随時委員の皆さまに報告出来るように準備していきたい。

〈会長〉

来年度からのコーディネーターの配置について、市民委員の2人のご意見をいただきたい。

〈委員〉

自分の時には無かったものであるため、生まれた時から相談できるコーディネーターがいるのは非常に心強いと想像する。コーディネーターの方に関わってもらった方たちの声を是非拾った方が良いのではないかと思う。

〈委員〉

コーディネーターさんとの関わりが今までないため想像がつかないのだが、コーディネーターが配置される事によって、生活がより良くなる環境や、自分の子どもに対してもより良くなる事を望んでいる。

〈事務局〉

現在、出産後治療を経て退院する際には、こども家庭センターの保健師などの関りというのはあったかと思う。その後ライフステージの変化に伴って、関係部署が変わる時期の調整が課題であり、繋ぐ役割が最も重要なコーディネーターの役割だと思っている。実際に関わった方の生の声を聞いてみたいという意見は、本当にそうだなと思う。コーディネーターの方にも、振り返りにもなると思われるため、是非そういった機会も作っていきたい。

〈会長〉

医療的ケア児等コーディネーターについて、委託先の担当者が決まっているのか、全体で平たく受ける感じなのかだけ教えていただきたい。

〈事務局〉

委託先の医療的コーディネーター研修を受けた2名が主に対応していただける予定。

〈委員〉

	<p>最近、生まれた時の手帳が見つかり、そこに先生に質問したいことがいろいろと書いてあり、最後に私のつぶやきが一言書いてあった。「いったい私の人生、これから先はどうなっていくんだろう。不安でしかない。」というつぶやきが書いてあった。その当時の記憶はないが、相当ショックでパニックだっただろうし、不安でいっぱいだったんだろうなという、一文が見えた。そのため、コーディネーターに助けてもらえる、そういうお母さんたちが増えるということは、本当にありがたいと思う。</p> <p>〈会長〉</p> <p>コーディネーターの方もおそらく市と連携をとりながら、多摩市で初めて配置される役割だと思うので、今まで色々経験されてきた方のお話も聞く機会持てるといいと思う。試行錯誤しながら、コーディネーターの役割を検討いただければと思う。</p> <p>〈事務局〉</p> <p>コーディネーターの方に期待する部分はあるが、コーディネーターも、初めてであるため、試行錯誤しながら日々やっていきたいと思う。市の施策を進めるのは、市に責任があるため、コーディネーターに現場の声を聞いていただき、進めていきたい。協議会の回数が減ってしまったが、新しい段階に進んだところかなと思う。今後も是非協力をお願いする。</p> <p>〈会長〉</p> <p>私たちも含めて良いものにしたいなと思っている。</p> <p>〈委員〉</p> <p>コーディネーターが頑張れば頑張るほど、役割の境界が非常に分けにくくなることを懸念している。通常業務である患者のケースワークもしながら、市のコーディネーターとしての仕事という両方の仕事が出てくると思う。ある程度枠組みを作っていて、市の役割をきちんと切り分けてほしい。随時相談しながらやっていければいいと思う。</p> <p>〈事務局〉</p> <p>通常業務のワーカーとしての役割と市のコーディネーターの役割があると思うので、意見交換や連携を密に取りながら一緒に考えさせていただきたいと思う。</p> <p>〈事務局〉</p> <p>協議会は平成 31 年度（令和元年度）から開始して、様々な取り組み、議論をさせていたでいる。令和 7 年度は、市民啓発等のイベントとして多摩市みんなの美術作品展で展示を行うことができた。それを踏まえて、令和 8 年度により市民啓発等を積極的に取り組んでいきたいと思っている。令和 8 年度は、医療的ケア児等コーディネーターを配置するた</p>
<p>2 議題 次年度以降 の活動計画 について</p>	

め、その中で情報共有や連絡会を密に行い、協議会で協議できるように準備を進めていきたい。災害時対策支援シートが、対象者拡大ということで、随時声をかけさせていただいているため、この進捗状況も協議会で報告できればと思っている。

庁内展示の報告。2月9日～2月25日まで、市役所内の総合窓口の前のロビーにて、啓発活動を実施した。市の職員にも知る機会になった。次年度も内容をさらにバージョンアップしてできたらと思っている。続いて令和8年度の啓発について、方向性を共有できればと思う。前回の協議会で、医ケアの方と健常者が知り合うことが大切だというお話があった。市内のイベントに関わって、楽しい雰囲気の中で、医療的ケアがある方のことを知ってもらい、そうでない方と知り合えたら良いと思っている。そこで、今年は多摩子どもフェスタと、永山フェスティバルの出場について検討したい。

多摩子どもフェスタは、令和8年6月7日10時から16時で行う予定。打診したところ、ブースを出すことは可能で、屋外・屋内どちらでも相談ができると聞いている。例えば、今年度はチラシとかポスターを貼るだけでも良いと考えている。

続いて永山フェスティバルについて、去年は9月20日、21の土日で実施した。展示は室内、模擬店は外で、基本的には2日間出展する。室内の展示という枠組みの中で、同じく展示物を貼るか、医ケアをやっている事業者さんに協力を依頼してワークショップのようなものをやることも可能。ご意見があれば伺いたい。

〈会長〉

今までも協議会の中で市民啓発の話が出てきたことはあったかと思うが、このように具体的なあの話が上がったのは初めてのため、ぜひ皆様からもご意見を伺いたい。

〈委員〉

医ケアを知ってもらうためには、医ケアのものを出した方がいいのかと思う。期限切れの胃ろうやチューブを実際に触ってもらうのも良いと思う。試供品などの紹介はメーカーと相談できるかもしれない。試食など体験型のものがあったらいいかと思う。高齢者でも施設入所するのに胃ろうでないと受け入れませんという所があるため、子どもだけの話ではない。子どもというところを強く打ち出さず、医ケアを出してもいいと思う。

〈事務局〉

昨年12月に小児総合医療センターで医療的ケアの方を知ってもらおうという交流会に参加してきた。赤ちゃんのお人形が気管挿管をつけている、ベビーベッド、人工呼吸器の器具の見本があり、実際に見ると話で聞くのは本当に違うと実感した。実際に見て手で触れるものというのを考えていきたい。

〈会長〉

実際にブースを出した機関の委員にどんな感じだったか、教えていただいてもいいか。

〈委員〉

12月小児総合の家族交流会に参加させていただいた。今回で3回目だったが、医療的ケアのある方々がどんな風に在宅の工夫をしながら過ごしているかというところを展示させていただいた。例えば、電源がなくなった時の吸引の方法やお子さんが大きくなるにつれて抱っこやお風呂が大変というような悩み事が出てきたりする。そういう相談ごとにより、物品の紹介や工夫の仕方をお伝えした。一番多かった相談としては、体が大きくなった時に、どんな風に工夫すればいいかというところで、お風呂の方法などをアドバイスした。本来であれば、メーカーさんなどにシャワーチェアなどの物品を持ってきてもらい展示できると良かったが、自前のものを持って行って参加させていただいた。買おうか検討していたものを試すことができたなどの声もあり、実際に見ることは大切だと思った。

〈会長〉

その他、先ほど座談会の話があったと思うが、どんな形の座談会を想定しているか。

〈事務局〉

みんなの美術作品展のパネルにあったような、医ケアとはどんなことか、どんな生活をしているか、地域にこういうことがあればいいということを、無理がない範囲でやりたい。イベントの時間帯は長いが、その一部でも協力していただければと思う。

〈会長〉

もし当事者の方のお話であれば、市民委員のお二人にも協力いただき、お話を伺える機会があれば良いと思う。こういう市民イベントに参加するのは、すごくいいと思っている。今年度最後の協議会になるため、今年度を振り返って、一人一言ずつ願います。

〈委員〉

令和元年からずっと参加させていただき、毎回勉強させていただいている。高齢者と子どもは全然違い、ケアする側の気持ちも違うのがとても参考になっている。先ほどのフェスは構えることなく、何か協力したいと思っている方が同じ町にいて、ご家族がちょっと困ったりしていることもあるよとか、災害の時にこうしてというのが、どちらも共存でき一緒に生きていくということが、全面に出せるといいかと思う。

〈委員〉

令和元年から関わらせていただいている。訪問看護をずっとやっていたので、在宅レスパイトに実際入らせていただいたりとか、アウトリーチで保育園に行きケアをやらせてい

ただいたりとか、自分が協議会で話していることを実際に業務の中でやってきたため、非常にやりがいがあった。訪看の啓発も続けていきたい。医療的ケアがなくても、障害のあるお子様を抱えていらっしゃる、お父様、お母様は非常に大変だと思っている。これからも尽力していきたい。

〈委員〉

今年度初めて参加させていただき、本当に勉強になることがたくさんあった。初めて委員になり自分の子どもと、あとはPTAで知り合ったお母さんからも話を聞いたりして、勉強になることがたくさんある。委員に選ばれてよかったなと思う。今後も真剣に考えて取り組んでいきたいと思った。

〈委員〉

本年度、初めて多摩市の協議会に参加させていただいた。今までは訪問看護師としていろいろなところを回っていた。この協議会に参加して、多摩市の現状が色々とよくわかるようになった。

〈委員〉

令和2年度から参加させていただいている。社会的な視点の学びが多く、ここで意識したことを学会でいろいろ質問して、何か持ち帰られるものがないだろうかと思っている。いろんなデバイスができて、どんどん良い機械ができていくが、そこに生活の視点が抜け落ちてしまっていることがしばしばある。サポートが全然足りていないのに、沢山の医ケアだけがついてお家に戻ってこられるということがある。機械を扱うのは素人のお父さんお母さんで、現実にご家庭ではそんなことができるわけではない。その難しさや矛盾を社会でどう埋めていくか。埋めてもきつとまた足りなくなるというのはあると思う。そこを少しでも考えられるといいかと思っている。

〈委員〉

令和元年から参加している。当事者の親という目線では、体験してきたことを話し、周りのお母さんたちの声を拾って伝えることはできると思っている。障がいがある方に何かしたいという声も聞くことがある。他に、地域に知ってもらおうというのはすごく大事だと思うが、それができない親御さんも結構いらっしゃる。抵抗がない保護者をうまく使っていただき、知っていただく機会を多く作れたら良いと思っている。

〈委員〉

私自身は昨年度から参加させていただいて、医療的ケア児者というところのくくりはあるが、幅広い取り組みについていろんな視点から議論されていて、積み重ねた取り組みが一

つひとつ動いていることを感じ、さらに進むといいと思っている。職場でも若い職員が増えており、支援をする立場ではあるが、地域の皆さんの状況が分かってない中で試行錯誤しながら相談支援をするような状況がかなり増えている。

〈委員〉

令和元年度からの参加で、もう7年経っていることに驚いている。医療的ケア児の親御様を委員に入れているということは、重要だと思っている。多摩市の悩みとしては、やりたいことはいろいろあるが、限られた財政の中でどれが一番効果的かということを見極めて、一つずつ着実にやっていくということが、大きなテーマだったかと思う。そういう意味で多摩市は一つずつ毎年毎年、確実に積み上げていただいていると思っている。この間には、医療的ケア児支援法ができるというような非常に大きな変化もあったが、それに対しても、しっかりと対応されてこられたと感じている。国の医療的ケア児の来年度の大きなテーマは、災害対策になりそうである。医療的ケア児支援センターがしっかり絡んで、自治体や地域の施設の方々、医療的ケア児のご家族としっかり話し合いながら、どういうことをすれば災害対策にいい動きができるか、医療的ケア児等コーディネーターの方を含めて、地域課題をしっかりと把握させていただき、どういうことをすれば地域の災害対策に効果的かということと一緒に考えさせていただければと思う。

〈会長〉

最初から参加させていただいて、皆様が円滑に議論できるよう進めさせていただいている。私自身も日々、医療的ケア児者と関わりを持つ中で、私たちと同じようにはいかないことが多々あるなというふうに思っている。その中で、同じ地域で暮らす対等な市民でありたいと思っており、町の中で友だちをたくさん作ってほしいと思う気持ちがすごくある。事業所は地域に開いて町の人たちともに運用しているため、これからも多摩市の地に足を付けて頑張っていきたいと思う。その上でこの協議会が、何よりも多摩市で暮らす医療的ケア児者にとって有益になるような協議会になるように、皆様の力を借りながら頑張りたいと思っている。

〈事務局〉

今回は令和8年度第1回となる。医療的ケア児等コーディネーター配置に伴って、相談や活動実績の報告を協議会で行う予定。上半期中に1回目の開催を考えている。委員の皆様にご心から感謝を申し上げたい。

終了